



### 2学期が始まります



最近では8月下旬から2学期が始まる学校も多いようです。以前は2学期の開始が9月1日という学校がほとんどでした。8月31日に宿題を頑張った記憶のあるお父さん、お母さんも多いでしょう。8月中はもっと遊んでいたい、まだ休んでいたい、そう考える子どもたちもきつといるに違いありません。まずは夜寝る時間、朝起きる時間、朝ごはん、昼ご飯、晩御飯の時間、夏休み中に少しでも遅くずれている生活が続いていたようなら、元の生活に戻しましょう。しかし、気持ちが悪い、おなかが痛い、頭が痛い、こんな訴えとともに朝起きられない、学校に行けない子どもたちがときどき見受けられます。熱もない、食欲もある、風邪のような症状もない。叱咤激励して学校に送り出すべきなのか、それとも休ませるべきなのか。迷う人もいるはずです。

学校に行かないのは悪いことという意識は小さな子どもでも感じているようです。親に心配をかけたくないという思いもあって、「学校に行きたくない」と言い出すことができず、その結果、「気持ち悪い、おなかが痛い、頭が痛い」などの身体の症状として表現されることがあります。これは仮病ではありません。本当に痛みを感じてつらくなっている状態です。結論を先に言うと、まずは学校を休ませることが望ましいと最近では考えられています。夏休みの終わりは、実は子どもの自殺が最も多い時期であることがわかっています。最悪の状況を回避することを最優先して、まずは休むことを認めてあげましょう。

休むことで何か問題が解決するのではなく、その場では問題の先送りであることは事実です。しかし、学校に行くことが絶対に必要かというところではない、学校に行かないというのは一つの症状、表現であって、子どもが抱えている問題を解決する入口として、まずは休んで考えようという対応です。自分がつらいときに、自分の方を向いてほしい、ちゃんと対応してほしいという子どもの期待に応えなかったことが、むしろ症状を悪くするかもしれません。病院に行くという理由があれば学校を休むうしろめたさも少し軽くなります。こどもが身体の不調を訴えて学校に行けないと言っているのであれば、まずは小児科受診して相談してみてください。きっとよい解決策が見つかるでしょう。

### 水いぼ

水いぼ(伝染性軟属腫)とは、皮膚の小さな傷などから伝染性軟属腫ウイルスが感染することによって細かい水いぼが発生する皮膚感染症の一種です。一般的には「水いぼ」と呼ばれ、皮膚バリア機能が未熟な7歳以下の小児で好発しています。発生する水いぼは直径2~5mmほどの大きさで、大きくなると10~15mmになることもあります。水いぼは角質層が厚い手のひらと足の裏以外、全身に発生します。水いぼの内部には原因となるウイルスが潜んでいるため、潰れた水いぼに触れた指で他の部位を掻いたり触れたりすることで新たな場所に水いぼが発生することがあります。乾燥などの皮膚バリアの機能低下・ステロイド治療中や免疫機能が未熟な小児では広い範囲に水いぼが広がることもあります。水いぼの多くは半年から3年ほどで自然に消退するとされていますが、その間は再発を繰り返しやすいことも特徴の一つです。

一昔前だと、園や学校のプールなど、ビート板共有などで水いぼが擦れてしまったことによる感染を防止するため水いぼを除去しないと入れないなど厳しい時代もありましたが、現在は水いぼの部分にラッシュガードなどで覆われていれば良いなど園や学校によって対応の変化がみられます。そこは集団生活のルールになるので対応は集団生活の方針になります。

治療はピンセットで水いぼをつまんで内容物を出す、液体窒素による冷凍凝固、レーザーを照射するところもあるようです。当院だと、ピンセットでつまんで除去する方法と銀配合のクリームを塗布する方法があります。どちらも医師が診察し、ご相談で治療をどうするか決めていきます。クリームだと通常2か月以上塗布していただき経過をみていく流れとなります。(効果がでてくるまでの期間は、水いぼのウイルスに対するその人の免疫反応が関与するので個人差があります)朝と入浴後の2回塗布していただきますが、銀は紫外線に弱く、直射日光が当たると短時間で効果がなくなってしまいます。直射日光が当たる腕や足など衣服で覆えない部位は、夜のみ塗布してください。

気になる方はまずはご相談ください。



### ケロケロひろば

コロナウイルス感染拡大に伴い、当分の間お休み致します。